

2) 授業内容と担当教員一覧

【平成20年度学則】

保健学専攻 博士前期課程

臨床検査・生命科学分野

I. 基幹科目

授業科目	担当者	講義概要
病理学	藤井 雅彦 (病理学)	腫瘍の形態学的特徴についての検討。 1. 良性腫瘍と悪性腫瘍の形態学的な違いについて解説する。 2. 肺がん、胃がん、大腸がん、子宮がん、乳がんなど代表的な悪性腫瘍の病理形態について解説する。
		学 習 目 標
		1. 腫瘍の性状について理解する。 2. 代表的悪性腫瘍の病理形態像を理解する。
		授 業 計 画
		1. 腫瘍の性状についての解説 2. 良性腫瘍と悪性腫瘍の病理形態学的な違いについて(2回) 3. 肺がんの病理形態像(3回) 4. 胃がんの病理形態像(2回) 5. 大腸がんの病理形態像(2回) 6. 子宮頸がんの病理形態像(2回) 7. 子宮体がんの病理形態像 8. 乳がんの病理形態像(2回)
		評 価 方 法
		受講態度(70%)、レポート(30%)
感染症疫学特論	坂内 久一 (臨床検査学)	講義概要
		感染症予防必携:(財)日本公衆衛生協会発行の内容を基礎知識として、病原微生物の氾濫:青土社をテキストに、感染症発生の背景を様々な観点から考察する。具体的には、章を分担し担当者は関連する領域の病原体発生の背景、性状、診断法、予防法に関する基礎知識、最近の流行傾向と問題点等について概説し問題点を提供し議論する。
		学 習 目 標
		感染の3大要因(病原体、感染経路、宿主)を理解することにより、疾病の予防、感染拡大防止にどのように対応することが適当であるかを代表的疾患について述べられること。
		授 業 計 画
		1. 感染症の歴史(1回) 2. 感染の3大要因(2回) 3. SARS、かぜ症候群、麻疹(2回) 4. 血液媒介性疾患(AIDS、肝炎)(3回) 5. 性感染症(淋病、梅毒、クラミジア)(3回) 6. 人獣共通感染症、その他(2回) 7. バイオセーフティーについて(1回) 8. まとめ(1回)
		受講態度/予習(60%)、レポート(20%)、口頭試問(20%)
免疫学特論	田口 晴彦 (免疫学)	講義概要
		特に感染症を取り上げ、その宿主免疫応答および免疫検査法について講義する。また、関連論文を選び、研究デザイン、データ解析、およびデータ意義について討論、考察する。
		学 習 目 標
		・病原体の生体侵入に対する宿主の自然免疫および適応免疫応答について理解する。 ・免疫応答を利用した感染症診断法について理解する。
		授 業 計 画
		1. 自然免疫(1):上皮細胞の免疫学的役割 2. 自然免疫(2):食細胞機能 3. 自然免疫(3):補体機能 4. 適応免疫(1):Tリンパ球機能-1 5. 適応免疫(2):Tリンパ球機能-2 6. 適応免疫(3):Bリンパ球機能-1 7. 適応免疫(4):Bリンパ球機能-2 8. 免疫検査法(1):検査原理-1 9. 免疫検査法(2):検査原理-2 10. 免疫検査法(1):液性免疫検査-1 11. 免疫検査法(2):液性免疫検査-2 12. 免疫検査法(3):細胞性免疫検査-1 13. 免疫検査法(3):細胞性免疫検査-2 14. 感染免疫研究における研究デザイン法 15. 感染免疫研究におけるデータ解析とその意義
		レポート(50%)、口頭試問(40%)、取り組み態度(10%)

細胞診断学特論	安井 英明 (細胞診断学)	講義概要	多段階発癌過程における、境界病変、前癌病変とされる病変について、その組織・細胞学的特徴を非腫瘍性細胞、及び悪性腫瘍細胞との形態学的比較を元に解説し、さらに免疫組織化学的検索等による知見を元に、癌化に関与すると考えられる各種蛋白の役割につき解説する。
		学習目標	多段階発癌過程早期イベントである境界病変、前癌病変について、その組織学的、及び細胞学的特徴を非腫瘍性細胞、及び悪性腫瘍細胞との形態学的比較を元に理解する。
		授業計画	1. 境界病変の形成メカニズム概論(2回) 2. 前癌病変の形成メカニズム概論(2回) 3. 境界・前癌病変の組織学的特徴総論(2回) 4. 境界・前癌病変の細胞学的特徴総論(1回) 5. 境界・前癌病変の組織学各論(消化器)(2回) 6. 境界・前癌病変の細胞学各論(消化器)(2回) 7. 境界・前癌病変の組織学各論(呼吸器)(2回) 8. 境界・前癌病変の細胞学各論(呼吸器)(2回)
		評価方法	レポート(50%)、口頭試問(50%)
		講義概要	血液疾患の成因・病態を追求検索し理解を深め疾病の本態を考察する。また、血液疾患の成因・病態の解明や診断に役立つ血液学的検査法の理論や技術を身につける。
血液学特論	東 克巳 (臨床血液学)	学習目標	血液疾患の具体的症例について検査所見から成因・病態の診断が出来るよう血液学的検査法を習得する。
		授業計画	1. 造血の仕組み(2回):造血組織の構造と機能、造血幹細胞の性状と分化 2. 貧血の成因・病態と臨床検査所見の解釈(3回) 3. 白血球の異常 4. 造血器腫瘍(3回):急性白血病、慢性白血病、悪性リンパ腫それぞれ診断のプロセスと臨床検査所見の解釈 5. 止血機構の仕組み(2回):血小板、血液凝固因子の性状と機能 6. 血小板異常と臨床検査所見の解釈 7. 血液凝固因子異常と臨床検査所見の解釈 8. 血栓性疾患と臨床検査所見の解釈 9. 血液凝固疾患治療のモニタリングと臨床検査所見の解釈
		評価方法	受講態度(40%)、レポート(40%)、口頭試問(20%)
		講義概要	1. 活性酸素の一般的性質と測定法の原理 2. 酸化障害を抑制する抗酸化物質 3. 抗酸化作用の定量的解析及び評価法 テキスト「Food and Free Radicals」Plenum
		学習目標	活性酸素の生成、性質および疾病との関わりについての基礎を理解する。
分析化学	丘島 晴雄 (分析化学)	授業計画	1. 活性酸素の生成(1)in vitro 2. 活性酸素の生成(2)in vivo 3. 活性酸素の消去(1)in vitro 4. 活性酸素の消去(2)in vivo 5. 活性酸素の測定法(2回) 6. フリーラジカル消去酵素の測定法 7. フリーラジカル・活性酸素消去機能を持つ天然物(2回) 8. 機能性食品 9. 活性酸素の功罪 10. 酸化ストレスマーカー 11. フリーラジカル・活性酸素と疾病(2回) 12. まとめ
		評価方法	受講態度(50%)、レポート(40%)、口頭試問(10%)
		講義概要	1. 活性酸素の一般的性質と測定法の原理 2. 酸化障害を抑制する抗酸化物質 3. 抗酸化作用の定量的解析及び評価法 テキスト「Food and Free Radicals」Plenum
		学習目標	活性酸素の生成、性質および疾病との関わりについての基礎を理解する。
		授業計画	1. 活性酸素の生成(1)in vitro 2. 活性酸素の生成(2)in vivo 3. 活性酸素の消去(1)in vitro 4. 活性酸素の消去(2)in vivo 5. 活性酸素の測定法(2回) 6. フリーラジカル消去酵素の測定法 7. フリーラジカル・活性酸素消去機能を持つ天然物(2回) 8. 機能性食品 9. 活性酸素の功罪 10. 酸化ストレスマーカー 11. フリーラジカル・活性酸素と疾病(2回) 12. まとめ
評価方法	受講態度(50%)、レポート(40%)、口頭試問(10%)		

臨床薬理学	石井 和夫 (臨床薬理学)	講義概要	薬物の動態(吸収、分布、代謝、排泄)には個人差があり、これが治療効果の個人差につながる。薬物の作用とその動態について学び、薬物治療における個別化を合理的に行うため、治療の個人差につながる原因を探る。																
		学習目標	薬物の作用機序を理解できている。薬物動態に関する特徴を理解できる。主な薬物相互作用や薬物を用いるときの注意点が理解できる。重要な副作用を理解できる。																
		授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 薬物治療の目指すもの</td> <td>2. 薬はどのように作用するのか(2回)</td> </tr> <tr> <td>3. 薬はどのように体をめぐっていくのか(2回)</td> <td>4. 薬効に影響する因子(総論)</td> </tr> <tr> <td>5. 年齢からみた薬効</td> <td>6. 薬理遺伝的形質(2回)</td> </tr> <tr> <td>7. 薬物アレルギー</td> <td>8. 反復投与における薬効への影響</td> </tr> <tr> <td>9. 薬物相互作用(2回)</td> <td>10. 薬物中毒はなぜおこるのか(2回)</td> </tr> </table>	1. 薬物治療の目指すもの	2. 薬はどのように作用するのか(2回)	3. 薬はどのように体をめぐっていくのか(2回)	4. 薬効に影響する因子(総論)	5. 年齢からみた薬効	6. 薬理遺伝的形質(2回)	7. 薬物アレルギー	8. 反復投与における薬効への影響	9. 薬物相互作用(2回)	10. 薬物中毒はなぜおこるのか(2回)						
		1. 薬物治療の目指すもの	2. 薬はどのように作用するのか(2回)																
		3. 薬はどのように体をめぐっていくのか(2回)	4. 薬効に影響する因子(総論)																
		5. 年齢からみた薬効	6. 薬理遺伝的形質(2回)																
7. 薬物アレルギー	8. 反復投与における薬効への影響																		
9. 薬物相互作用(2回)	10. 薬物中毒はなぜおこるのか(2回)																		
評価方法	受講態度(50%)、レポート(40%)、口頭試問(10%)																		
講義概要																			
分子生命科学	蒲生 忍 (分子生物学)	講義概要	ワトソンとクリックによるDNA二重螺旋モデルの解明に始まる分子生物学の時代は、人の様々な形質や疾病の原因を分子レベルで明らかにした。また、ゲノム解析を端緒とする技術的革新は、次々に新しい技術や道具を生み出しながら、従来は解明が困難であった発生や分化などの複雑な現象の機構にも解析の手を加え、あらゆる生命現象を分子レベルで記載する分子生命科学の時代を到来させた。分子レベルからの生命現象の理解は今後の医学・医療において必須の要件と言える。本講義においては分子生命科学の基盤である分子レベルでの生物の記載と、特に様々な疾患の原因を分子レベルから究明する分子疾病論を取り上げる。																
		学習目標	分子レベルから生命現象を理解し追求する基盤を形成する。 疾病の原因究明と治療における分子レベルでのアプローチを理解し応用する基盤を形成する。																
		授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 分子生命科学の基礎(6回)</td> <td>2. 分子疾病論(8回)</td> </tr> <tr> <td>イントロダクション</td> <td>遺伝子と発生:発生の異常</td> </tr> <tr> <td>遺伝子の本体</td> <td>遺伝子と形質:多型</td> </tr> <tr> <td>遺伝子とゲノム</td> <td>遺伝子と疾患:先天性疾患1・2</td> </tr> <tr> <td>細胞の分子基盤</td> <td>遺伝子と環境:がん1・2</td> </tr> <tr> <td>運動と形態の分子基盤</td> <td>遺伝子と環境:生活習慣病</td> </tr> <tr> <td>発生と分化の分子基盤</td> <td>遺伝子検査:その問題点と将来</td> </tr> <tr> <td>3. まとめ(総合討論)</td> <td></td> </tr> </table>	1. 分子生命科学の基礎(6回)	2. 分子疾病論(8回)	イントロダクション	遺伝子と発生:発生の異常	遺伝子の本体	遺伝子と形質:多型	遺伝子とゲノム	遺伝子と疾患:先天性疾患1・2	細胞の分子基盤	遺伝子と環境:がん1・2	運動と形態の分子基盤	遺伝子と環境:生活習慣病	発生と分化の分子基盤	遺伝子検査:その問題点と将来	3. まとめ(総合討論)	
		1. 分子生命科学の基礎(6回)	2. 分子疾病論(8回)																
		イントロダクション	遺伝子と発生:発生の異常																
		遺伝子の本体	遺伝子と形質:多型																
遺伝子とゲノム	遺伝子と疾患:先天性疾患1・2																		
細胞の分子基盤	遺伝子と環境:がん1・2																		
運動と形態の分子基盤	遺伝子と環境:生活習慣病																		
発生と分化の分子基盤	遺伝子検査:その問題点と将来																		
3. まとめ(総合討論)																			
評価方法	受講態度(50%)、レポート(50%) 特に受講時の積極性、リーダーシップ、レポートにおいては創造性を高く評価する。																		
講義概要																			
医療倫理学	蒲生 忍 (分子生物学)	講義概要	医療従事者はその専門職としての技術的完成度に加えて、研究や医療の現場で直面する様々な葛藤に対して「高い倫理観」を持って対処することを求められる。しかし、この「倫理観に基づく判断」とは何か、またどのように倫理観を涵養するのかを問われると困惑せざるを得ないのではないかと。医療における倫理判断には基盤となる科学的・法的・倫理/哲学的知識に加えて、各人の経験と感性に裏付けられた熟成が必要である。本講義では必須の知識基盤としての幾つかの倫理的思考法について概説し、さらに歴史的な事例と現代的な事例に基づいて解析考察することで、倫理的判断を形成する過程について考察する。																
		学習目標	本講義では受講者各人が何らかの形で倫理的判断に関与することを前提に、 1. 倫理的判断に必須の知識基盤を形成する手段 2. 知的基盤に基づいて判断する手段 を体得することを目標とする。																
		授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 生命倫理の原則(4回)</td> <td>— 歴史的原則論・生命倫理の原則</td> </tr> <tr> <td>2. 歴史的展望(4回)</td> <td>— いくつかの歴史的転回点の事例について</td> </tr> <tr> <td>3. 現在の医療倫理の問題点について(4回)</td> <td>— 終末期医療・生殖補助医療・移植医療</td> </tr> <tr> <td>4. まとめ</td> <td>— 自由課題についての討論(2回)・総合討論(1回)</td> </tr> </table>	1. 生命倫理の原則(4回)	— 歴史的原則論・生命倫理の原則	2. 歴史的展望(4回)	— いくつかの歴史的転回点の事例について	3. 現在の医療倫理の問題点について(4回)	— 終末期医療・生殖補助医療・移植医療	4. まとめ	— 自由課題についての討論(2回)・総合討論(1回)								
		1. 生命倫理の原則(4回)	— 歴史的原則論・生命倫理の原則																
		2. 歴史的展望(4回)	— いくつかの歴史的転回点の事例について																
		3. 現在の医療倫理の問題点について(4回)	— 終末期医療・生殖補助医療・移植医療																
4. まとめ	— 自由課題についての討論(2回)・総合討論(1回)																		
評価方法	受講態度(50%)、レポート(50%) 特に受講時の積極性、リーダーシップ、レポートにおいては思索性を高く評価する。																		
講義概要																			
学習目標																			

人類遺伝学	関澤 浩一 (健康教育学)	講義概要	ヒトの遺伝様式及び遺伝子発現の基礎知識を概観した上で、代表的な単一遺伝子疾患と染色体異常疾患について、遺伝カウンセリング技術に必要な知識を中心に講義する。さらに、遺伝子変異を起こす要因とその影響を適切に把握するための資料を検証する。
		学習目標	次の3項目について理解を深め、遺伝カウンセリングなど相談業務に必要な知識を把握する。 1. 遺伝様式及び遺伝子発現機構の理解 2. 代表的な単一遺伝子疾患及び染色体異常疾患の理解 3. 環境中の遺伝子変異誘発物質の評価法
		授業計画	1. 高等生物の遺伝子発現及びヒトの形質の遺伝様式(2回) 2. 単一遺伝子疾患の発症と遺伝(3回) 3. 染色体異常疾患の発症と遺伝(3回) 4. 多因子疾患の遺伝(2回) 5. 遺伝にまつわる社会的倫理的問題(2回) 6. 環境中の変異原(2回) 7. 人類の遺伝的リスクと評価基準の多様性(1回)
		評価方法	受講態度(40%)、レポート(40%)、口頭試問(20%)
		講義概要	現代における解剖学は、生化学、免疫学さらに分子生物学における技術や概念を取り入れてさらに発展を続ける、極めて活気に満ちた学問領域である。その領域の中で、感覚器系に焦点を絞り、1) 視覚器、2) 味覚器、3) 嗅覚器、4) 聴覚・平衡覚器、5) その他の感覚装置、について、ヘルスサイエンス志向の解剖学的視点に立って講義する。
		学習目標	主要な感覚器の組織、細胞生物学的特徴を理解し、その分子解剖学的意義について例を挙げて説明できるようになる。
解剖学	大迫 俊二 (解剖学・細胞生物学)	授業計画	1. 感覚装置の機能解剖学的見地からの概論 2. 視覚器の組織細胞構築(2回) 3. 聴覚器の組織細胞構築 4. 平衡感覚器の組織細胞構築 5. 味覚器の組織細胞構築(2回) 6. 嗅覚器の組織細胞構築(2回) 7. フェロモン受容器の組織細胞構築 8. 視覚受容に関する分子解剖学 9. 聴覚・平衡感覚受容に関する分子解剖学 10. 嗅覚受容に関する分子解剖学 11. フェロモン受容に関する分子解剖学 12. 上記以外の感覚装置について、まとめ
		評価方法	受講態度(20%)、レポート(60%)、口頭試問(20%)
		講義概要	保健・医療・福祉系の情報システムの現状を理解し、教育・研究を含めて、それらを支援するために必要な情報を体系化・システム化するために必要な技術、情報を管理・処理する方法等について学ぶ。
		学習目標	保健・医療・福祉系の情報システムがなぜ構築されたのか、その背景、個々のシステムの特性などを理解する。
		授業計画	1. 授業のガイダンス(1回) 2. 保健・医療・福祉系の情報:どのような情報があるか?(1回)各分野における情報について(2回) 3. いろいろな情報システム: 病院情報システム(2回)、保健・福祉情報システム(1回)その他の情報システム(1回) 4. 情報システムの見学・調査:病院情報システム(3回)、保健・福祉情報システム(3回) 5. まとめ(1回):学生による発表とディスカッション
		評価方法	受講態度(20%)、レポート(60%)、口頭試問(20%)
医療情報学	川澄 岩雄 (物理学・医用工学)	講義概要	保健・医療・福祉系の情報システムの現状を理解し、教育・研究を含めて、それらを支援するために必要な情報を体系化・システム化するために必要な技術、情報を管理・処理する方法等について学ぶ。
		学習目標	保健・医療・福祉系の情報システムがなぜ構築されたのか、その背景、個々のシステムの特性などを理解する。
		授業計画	1. 授業のガイダンス(1回) 2. 保健・医療・福祉系の情報:どのような情報があるか?(1回)各分野における情報について(2回) 3. いろいろな情報システム: 病院情報システム(2回)、保健・福祉情報システム(1回)その他の情報システム(1回) 4. 情報システムの見学・調査:病院情報システム(3回)、保健・福祉情報システム(3回) 5. まとめ(1回):学生による発表とディスカッション
		評価方法	受講態度(20%)、レポート(60%)、口頭試問(20%)

微生物学	森田 耕司 (臨床微生物学)	講義概要	感染症サーベイランス(infectious disease surveillance)の概要および現在に至るまでの感染症の歴史を紹介し、現在から将来へ向けての問題点を考察する。講義担当者作成の印刷教材をもとにして講義を進めるが、適宜、インターネットを利用した感染症情報の調査〔国立感染症研究所(National Institute of Infectious Diseases,NIID)、米国疾病管理予防センター(Center for Disease Control and Prevention)を拠点として〕を行い、国内外における感染症の発生動向を知る。
		学習目標	1. 微生物の進化過程とその要因を理解する。2. 感染症の変遷とその要因を理解する。3. 感染症サーベイランスの意義を理解する。4. 国内外における感染症の現況を知る。
		授業計画	1. 地球カレンダーで見る微生物の誕生と進化 2. 微生物の分類と特徴 3. 代表的な感染症と原因微生物(細菌) 4. 代表的な感染症と原因微生物(真菌と原虫) 5. 代表的な感染症と原因微生物(ウイルス) 6. 日本・世界における感染症の歴史 7. 検疫と感染症サーベイランス 8. 化学療法の歴史と化学療法の現状 9. ワクチンの歴史と感染予防の現状 10. 天然痘根絶変遷 11. ポリオ根絶戦略 12. 結核症と結核の疫学 13. HIV感染とAIDSの疫学 14. 感染症サーベイランスシステムの現状と未来 15. まとめと総合討論
		評価方法	受講態度(40%)、レポート(40%)、口頭試問(20%)
感染制御学特論	森田 耕司 (臨床微生物学)	講義概要	医療機関における感染制御(infection control)と薬剤耐性菌サーベイランス(drug-resistant organism surveillance)の現状を紹介し、感染(感染症)対策に関する基本的な理解を高める。講義は講義担当者作成の印刷教材の他に、薬剤耐性の理論と感染制御に関連した基礎的な文献を使用する。
		学習目標	1. 病院感染(院内感染)の定義を理解する。2. 抗菌薬の分類と作用機序を理解する。3. 抗菌薬耐性の機序を理解する。医療感染関連サーベイランスの方法を理解する。4. 標準予防策と感染経路別予防策の概念と実践方法を理解する。
		授業計画	1. 感染制御と感染管理の概念 2. 臨床的に重要な耐性菌と耐性メカニズム (1)MRSA, PRSP, BLNAR (2)VRE, VRSA (3)MDRP (4)ESBL産生菌、MBL産生菌 3. 医療感染サーベイランスの必要性・基本・解析・フィードバック 4. 医療感染サーベイランスの実際(CR-BSI, VAP, SSI, CR-UTI, 職業感染) 5. 病院感染対策の基本 (1)標準予防策、感染経路別予防策) (2)バリアアプリケーション、職業感染対策 6. 病院感染対策における微生物検査の実際 7. 臨床材料分離菌についての考え方 (1)血液、髄液を中心に (2)喀痰、糞便、尿を中心に 8. 薬剤感受性試験の評価法 9. CDCの多剤耐性菌ガイドライン 10. まとめと総合討論
		評価方法	受講態度(40%)、レポート(40%)、口頭試問(20%)
生化学特論	島 幸夫 (臨床検査教育学)	講義概要	生体物質の性質と代謝について学び、それに関わる最新の分析・測定法を理解し、実際の研究例を検討する。
		学習目標	生化学物質・代謝の基礎知識を広げ、研究において応用できるようにする。
		授業計画	1. 「水」の特異性(2回) 2. 糖質の性質と代謝、測定法(3回) 3. 脂質の性質と代謝、測定法(3回) 4. タンパク質の性質と代謝、測定法(3回) 5. 核酸の性質と代謝、測定法(3回) 6. まとめ
		評価方法	受講態度(20%)、レポート(40%)、口頭発表(40%)

II. 高度専門職業人養成科目

授業科目	担当者	講義概要
病理細胞診断技術	藤井 雅彦 (病理学) 安井 英明 (細胞診断学)	腫瘍の組織学的診断、良悪の判定、転移がんにおける原発巣の推定などに広く用いられている免疫組織学的手法について、マーカーの選択と染色結果の正しい判定を中心に解説する。
		学 習 目 標
		1. 免疫組織学的手法について、理論と手技を十分に理解する。 2. 特定の腫瘍におけるマーカーの選択とその染色結果の判定のポイントを習得する。
		授 業 計 画
		1. 免疫組織学的手法の理論と手技についての解説(3回)(藤井) 2. がん関連抗原についての解説(3回)(藤井) 3. がん遺伝子と遺伝子産物についての解説(2回)(安井) 4. ホルモン関連物質についての解説(2回)(安井) 5. 病原体関連抗原についての解説(2回)(安井) 6. その他(細胞増殖因子等の解説)(3回)(安井)
		評 価 方 法
		単位認定者(藤井先生):受講態度(70%)、レポート(30%)
微生物培養・分析技術	坂内 久一 (臨床検査学) 森田 耕司 (臨床微生物学) 宮澤 博 (臨床検査教育学)	講義概要
		ウイルスやクラミジアの培養と病原体検出法の実際(坂内) 真菌・細菌の培養、薬剤感受性の評価法と遺伝子検査法の実際(森田) 血清抗体測定と血清学的診断法(宮澤) 上記のように1セメスターを3分類し分担して教授する。
		学 習 目 標
		学部で学んだ臨床微生物学的知識、技術を充実させるとともに、培地で培養増殖できる細菌・真菌や培養細胞を必要とするウイルス・クラミジアについてその具体的手技と知識を学ぶ。
		授 業 計 画
		1. 細胞培養法(3回 坂内) 2. 増殖に生細胞を必要とする病原体の分離培養(2回 坂内) 3. 真菌・細菌の培養と同定、遺伝子検査法(3回 森田) 4. 病原微生物の薬剤感受性試験法(2回 森田) 5. 感染症の血清診断法1(抗原・抗体測定法)(2回 宮澤) 6. 感染症の血清診断法2(ELISA法)(3回 宮澤)
評 価 方 法		
		単位認定者(森田先生):受講態度(60%)、レポート(20%)、口頭試問(20%)
遺伝子解析技術	蒲生 忍 (分子生物学) 相磯 聡子 (分子生物学)	講義概要
		ヒトのゲノム解析にはじめるゲノム生物学について、その基礎となる技術、さらに発展について染色体、一般的遺伝子解析、応用技術について特に技術論と方法論を中心に解説する。また各技術分野について、今後の発展と新分野への展開について解説する。
		学 習 目 標
		遺伝子解析に関する基礎的技術、さらに多様な先端技術についての原理的理解をその発展の基盤を理解するとともに、現在の様々なアプリケーションの実例について検討し、各自の研究テーマに沿って今後の応用について考究する。
		授 業 計 画
		1. 遺伝子解析技術論(蒲生・8回) 染色体分染法・in situ hybridization法・ゲノム解析技術・遺伝子導入生物技術・幹細胞解析・遺伝子治療技術・討論 2. 分子生物学技術論(相磯・7回) 遺伝子クローニング技術・遺伝子構造解析技術・遺伝子機能解析技術・討論
評 価 方 法		
		単位認定者(蒲生先生):受講態度(50%)、レポート(50%) 特に受講時の積極性、リーダーシップ、レポートにおいては創造性を高く評価する。

血液細胞培養・分析技術	東 克 巳 (臨床血液学)	講 義 概 要	血液細胞培養の基礎的な手技の修得、および造血器腫瘍細胞の培養細胞株継代方法の手技を習得する。また、培養細胞株を用いた実験の分析技術を身につける。
		学 習 目 標	1. 血液細胞の培養が出来るようになること。 2. 培養細胞株の継代が出来るよう培養技術を習得すること。
		授 業 計 画	1. 培養のための基礎知識(2回):設備・器具と培地 2. 無菌操作と実験の安全性とバイオハザード(2回) 3. 細胞分散法、細胞の計算法 4. 培養細胞の形態観察と写真撮影(3回) 5. 凍結保存法と解凍法(2回) 6. 末梢血リンパ球培養法(2回) 7. マウス骨髄細胞培養法 8. ヒト骨髄細胞培養法 9. 白血病細胞株培養法(2回)
		評 価 方 法	
			受講態度(40%)、レポート(40%)、口頭試問(20%)
生化学解析技術	丘 島 晴 雄 (分析化学) 島 幸 夫 (臨床検査教育学) 岡 田 洋 二 (分析化学) 村 椿 春 博 (生体検査学)	講 義 概 要	臨床検査によって得られる生体情報は、患者の病態を把握する上で必須である。多種の生化学的成分の中でも酵素は頻用されている。酵素を用いた生化学的病態解析法を、酵素の基礎、酵素の生体代謝における役割、酵素の病態解析への応用について教授し、高度専門職業人養成の一助とする。
		学 習 目 標	酵素に焦点を絞り、病態解析における重要性を理解する。
		授 業 計 画	1. 酵素とは(島) 2. 酵素の取り扱いと精製法(岡田) 3. 物質代謝における酵素の役割(丘島) 4. 酵素と代謝動力学(村椿) 5. 生体成分測定への利用(酵素的分析)と実践(3回 村椿) 6. 酵素活性測定法と実践(3回 村椿) 7. 疾患に伴う酵素量の変動(4回 村椿) 8. 酵素の臨床利用に関する口頭発表(村椿)
		評 価 方 法	
			単位認定者(村椿先生):受講態度(40%)、レポート(20%)、口頭試問(40%)
薬物代謝分析技術	石 井 和 夫 (臨床薬理学)	講 義 概 要	薬物の動態(吸収、分布、代謝、排泄)解析には、投与薬の代謝産物を含めた血中および尿中における質的、量的把握が必要である。生体成分の前処理法を含め、それら試料の機器分析法について解説する。
		学 習 目 標	薬物の動態(吸収、分布、代謝、排泄)解析には、主に血液、尿試料を取り扱うことになるが、まず生体マトリックスからの薬物およびその代謝産物をクリーンアップするにはどうすればよいのか。それらの性質を代謝の仕組みから理解し、機器分析に先立ち適切な前処理法を考案できる。適切な分離手段、分析手段を選択することができる。
		授 業 計 画	1. 薬物代謝とは(2回) 2. 薬物の物理化学的性状と分析法の選択 3. ガスクロマトグラフィー(GC)(2回) 4. ガスクロマトグラフィー-質量分析装置(GC/MS) 5. 高速液体クロマトグラフィー(HPLC)(2回) 6. 高速液体クロマト-質量分析計(2回) 7. 生体成分の前処理法(GCサンプル) 8. 生体成分の前処理法(HPLCサンプル)(2回) 9. 薬物動態解析例(2回)
		評 価 方 法	
			受講態度(50%)、レポート(40%)、口頭試問(10%)

免疫細胞生物学 実験法	田口 晴彦 (免疫学)	講義概要	免疫担当細胞の種類と取り扱い、免疫担当細胞とサイトカインアッセイ、細胞傷害試験等、免疫実験法を講義する。また、関連論文を選び、実験デザインとデータ解析について討論する。																
		学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 免疫担当細胞の種類とその機能について理解する。 免疫担当細胞の取り扱い法について理解する。 免疫担当細胞を用いた検査法について理解する。 免疫実験法について理解する。 																
		授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 細胞を用いた実験</td> <td>2. 免疫担当細胞の種類と機能(1)</td> </tr> <tr> <td>3. 免疫担当細胞の種類と機能(2)</td> <td>4. 免疫担当細胞の取り扱い</td> </tr> <tr> <td>5. サイトカインと増殖因子(1)</td> <td>6. サイトカインと増殖因子(2)</td> </tr> <tr> <td>7. サイトカインと増殖因子(3)</td> <td>8. イムノアッセイの原理(1)</td> </tr> <tr> <td>9. イムノアッセイの原理(2)</td> <td>10. 細胞傷害試験</td> </tr> <tr> <td>11. サイトカインアッセイ(1)</td> <td>12. サイトカインアッセイ(2)</td> </tr> <tr> <td>13. 免疫実験のデザイン法</td> <td>14. 免疫実験のデータ解析(1)</td> </tr> <tr> <td>15. 免疫実験のデータ解析(2)</td> <td></td> </tr> </table>	1. 細胞を用いた実験	2. 免疫担当細胞の種類と機能(1)	3. 免疫担当細胞の種類と機能(2)	4. 免疫担当細胞の取り扱い	5. サイトカインと増殖因子(1)	6. サイトカインと増殖因子(2)	7. サイトカインと増殖因子(3)	8. イムノアッセイの原理(1)	9. イムノアッセイの原理(2)	10. 細胞傷害試験	11. サイトカインアッセイ(1)	12. サイトカインアッセイ(2)	13. 免疫実験のデザイン法	14. 免疫実験のデータ解析(1)	15. 免疫実験のデータ解析(2)	
		1. 細胞を用いた実験	2. 免疫担当細胞の種類と機能(1)																
		3. 免疫担当細胞の種類と機能(2)	4. 免疫担当細胞の取り扱い																
5. サイトカインと増殖因子(1)	6. サイトカインと増殖因子(2)																		
7. サイトカインと増殖因子(3)	8. イムノアッセイの原理(1)																		
9. イムノアッセイの原理(2)	10. 細胞傷害試験																		
11. サイトカインアッセイ(1)	12. サイトカインアッセイ(2)																		
13. 免疫実験のデザイン法	14. 免疫実験のデータ解析(1)																		
15. 免疫実験のデータ解析(2)																			
評価方法	レポート(50%)、口頭試問(40%)、取り組み態度(10%)																		
		講義概要																	
光学・ 電子顕微鏡技術	大迫 俊二 (解剖学・細胞生物学)	講義概要	医学およびヘルスサイエンスの発展において、顕微鏡技術の発展は必須のものであった。様々な種類がある光学顕微鏡の装置の開発史にも触れながら、研究目的によってどのような光学顕微鏡技術が必要であるか例を挙げながら説明する。電子顕微鏡については透過型および走査型の特徴を概説し、それらに関連する技術がどのように使われているのかについて述べる。さらに、光学・電子顕微鏡をどのように効果的に組み合わせ、研究が行われているのかについて解説する。																
		学習目標	様々な光学顕微鏡、および電子顕微鏡の原理を理解し、それらがいかに医学、ヘルスサイエンス領域で有効に使われているか理解する。																
		授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 顕微鏡の歴史 明視野顕微鏡の原理とその活用 位相差および微分干渉顕微鏡の原理とその活用 蛍光顕微鏡の原理とその活用 共焦点レーザー走査顕微鏡の原理とその活用 光学顕微鏡で解析する組織染色法 光学顕微鏡観察の為に組織の固定および標本作製法 透過電子顕微鏡の原理とその活用 透過電子顕微鏡観察の為に組織の固定および標本作製法 走査電子顕微鏡の原理とその活用 走査電子顕微鏡観察のための組織の固定および標本作製法 光学顕微鏡法によるデータ取得と処理 電子顕微鏡法によるデータ取得と処理 光学・電子顕微鏡法を用いた研究の実例 まとめ 																
		評価方法	受講態度(20%)、レポート(60%)、口頭試問(20%)																
				講義概要															

機能分子化学・ 薬物動態学 セミナー	丘島 晴雄 (分析化学) 石井 和夫 (臨床薬理学) 島 幸夫 (臨床検査教育学) 岡田 洋二 (分析化学) 村椿 春博 (生体検査学)	講義概要	生体に対する障害機構の一つにフリーラジカルや活性酸素の関与があげられる。これらが、がん、心臓病、糖尿病などの生活習慣病を引き起こす。また一方、古来より、医食同源という言葉が使われるが、健康維持、疾病予防のために抗酸化食品といわれるものも注目されている。この科目では、それらの病因と発生メカニズム、マーカーの検出および疾病の予防、抗酸化食品の効用など、最近の文献を主体としセミナー形式で進める。
		学習目標	過酸化脂質による病因の発生メカニズムから、病因のマーカーの検出、そして予防、さらに機能性食品として健康維持、疾病予防に期待される食品の機序などを、一貫して化学的、そして機能的に捉えることを目的とする。1過酸化脂質により生体がダメージを受ける機構 2その要因とバイオマーカー 3そのダメージを防ぐ抗酸化機構 4抗酸化食品の作用メカニズムと効用および、その体内動態など、基本的な単行本を参考書としながら、最近のホットな文献などを題材として、セミナー形式で発表と質疑、討論形式で進めて行き、参加者自身の課題の立案と解決能力を養う。
		授業計画	1. 過酸化脂質と生体物質の酸化メカニズムの基礎(3回)(岡田) 2. 酸化ストレスマーカー(I)(3回)(村椿) 3. 酸化ストレスマーカー(II)(3回)(島) 4. 抗酸化剤と活性酸素種の反応速度と反応機構(3回)(丘島) 5. 機能性食品と作用機序(1回)(石井) 6. 食品中の抗酸化性物質の体内動態(2回)(石井)
		評価方法	単位認定者(石井先生):受講態度(50%)、レポート(40%)、口頭試問(10%)
		講義概要	ヒトの遺伝子発現、遺伝様式の解析、遺伝子変異の誘発機構などに関する総説や論文を読む。
		学習目標	1. 研究領域の現状を包括的に理解する。 2. 研究領域について新しい知識を得る。 3. 論文によって、研究計画の立て方や論文としてまとめ方などを理解する。
人類遺伝学 セミナー	田村 高志 (臨床検査学)	授業計画	セミナーは毎週開講して、原則として次の第1項を行う。受講者の人数によっては次の第2項を導入する。 1. 受講者は月1回程度論文を紹介するとともに、月1回程度受講者全員で総説を要約する。 2. 人類遺伝学の分野での代表的な雑誌 (American J. of Human Genetics, Trends in Genetics, Mutation Research 等)の目次とサマリーを読んで、研究領域の流れを把握する。(15回)
		評価方法	受講態度(40%)、レポート(20%)、口頭試問(40%)
		講義概要	血液に関する主要国際誌の最新の知見について抄読会を行う。
血液学セミナー	東 克巳 (臨床血液学)	学習目標	Bloodなど血液学の代表的な英文誌から論文を毎月最低1篇読み、その内容を発表する。研究領域について新しい知識を得る。
		授業計画	セミナーは毎週開講する。少なくとも、月1回は履修者全員の前で論文の内容について発表し、その内容について質疑と討論をする。(15回実施)
		評価方法	受講態度(40%)、レポート(20%)、口頭試問(40%)
		講義概要	血液に関する主要国際誌の最新の知見について抄読会を行う。

免疫学セミナー	田口 晴彦 (免疫学)	講義概要	免疫学に関する英文論文を読み、理解を深める。
		学習目標	免疫の意味、免疫システムについて英語で理解出来るようにする。
		授業計画	<p>1. Defenses of body surfaces (1) Preventing contact between host and pathogen (2) Skin surfaces: The first line of defense (3) Special defenses of mucosal surfaces</p> <p>2. Defenses of tissue and blood (1) Nonspecific defenses (2) Antibodies, activated macrophages and cytotoxic T cells (3) Factors that impair or improve host defenses</p> <p>3. Experimental approaches to investigate the host-bacterium interaction (1) Designing an experimental system for studying the bacterium-host interaction</p> <p>4. Vaccines and other approaches to modulate the immune response (1) Properties of good vaccines (2) Passive immunization (3) Immunostimulants</p> <p>5. Infection and Immunity: 最新ジャーナルの講読 (5回)</p>
		評価方法	レポート(50%)、口頭試問(40%)、取り組み態度(10%)

IV. 演習科目

授業科目	担当者	講義概要
病理学演習	藤井 雅彦 (病理学)	各種臓器における良性・悪性腫瘍、および前がん病変などについて、病理組織標本の観察を通して、それらの形態学的特徴について学ぶ。
		学習目標
		胃、大腸、肺、子宮、乳腺などの臓器について、腫瘍組織の病理標本の詳細な観察を行い、それらの病理診断のポイントを習得する。
		授業計画
		<p>1. 正常胃組織と胃がんの観察(3回) 2. 正常大腸組織、大腸腺腫、大腸がんの観察(3回) 3. 正常肺組織と肺がんの観察(3回) 4. 正常子宮頸部、子宮頸部異形成、子宮頸がんの観察(2回) 5. 正常子宮体部、子宮内膜増殖症、子宮体がんの観察(2回) 6. 正常乳腺組織と乳がんの観察(2回)</p>
評価方法	受講態度(70%)、レポート(30%)	
細胞診断学演習	安井 英明 (細胞診断学)	講義概要
		多段階発癌過程における、境界病変、前癌病変とされる病変について、その細胞学的特徴を実際の症例を用い、非腫瘍性細胞、及び悪性腫瘍細胞との形態学的比較を元に検討する。さらに免疫組織化学的検索、分子病理学的手法を用い、癌化に関与すると考えられる各種蛋白の発現検討を行う。
		学習目標
		多段階発癌過程における早期イベントである境界・前癌病変について、その組織・細胞学的特徴を実際の症例において理解し、形態学的特徴を表現できる。さらに免疫組織化学的検索、分子病理学的手法を用い、癌化に関与すると考えられる各種蛋白の発現検討を行い、各段階における差異を理解するとともに、これらの手技について習熟することを目標とする。
		授業計画
<p>1. 境界・前癌病変の組織学総説(2回) 2. 境界・前癌病変の細胞学総説(2回) 3. 境界・前癌病変の細胞像観察各論(消化器顕微鏡実習2回) 4. 境界・前癌病変の細胞像観察各論(呼吸器顕微鏡実習2回) 5. 境界・前癌病変の免疫組織細胞化学実習総論(4回) 6. 境界・前癌病変の分子病理学実習(3回)</p>		
評価方法	レポート(50%)、口頭試問(50%)	

感染症演習	坂内 久一 (臨床検査学) 森田 耕司 (臨床微生物学) 宮澤 博 (臨床検査教育学)	講義概要	基礎的技術である無菌操作、培地の作製法、細胞培養法、ELISA法等を操作手順を見ながらであっても、危険を侵すことなく実施できるよう講義または実際に行い体験する。履修者数が3名以内であればバイオハザード実験室において、一連の基礎実験や病原体の扱いを体験する。また、ELISA法による抗原・抗体の検出を行い知識と技術の定着を図る。履修者と相談の上、集中で実施する。
		学習目標	上記概要に示す基礎的操作を操作マニュアルを見ながらであっても、危険を侵すことなく実施できるようになること。
		授業計画	1. バイオセーフティー(2回 坂内) 2. 基本操作、手技(3回 坂内) 3. 細菌の分離同定(3回 森田) 4. 遺伝子診断(2回 森田) 5. 抗原検査(2回 宮澤) 6. 抗体検査(3回 宮澤)
		評価方法	単位認定者(森田先生):受講態度(60%)、レポート(20%)、口頭試問(20%)
免疫学演習	田口 晴彦 (免疫学)	講義概要	マイコプラズマ肺炎は肺炎マイコプラズマにより惹起されるが、その発症には宿主免疫応答が深く関与していることが示唆されている。本講義ではマイコプラズマ肺炎の発症メカニズムについて、感染実験データ及び関連論文より討論、考察する。
		学習目標	マイコプラズマ肺炎の発症メカニズムについて、免疫学的解析を通じてその理論の構築ができることを目的とする。
		授業計画	1. マイコプラズマ肺炎の疫学 2. マイコプラズマ肺炎の臨床症状 3. マイコプラズマ感染症における宿主免疫応答-1 4. マイコプラズマ感染症における宿主免疫応答-2 5. マイコプラズマ感染症における宿主免疫応答-3 6. マイコプラズマ感染症における宿主免疫応答-4 7. マイコプラズマ肺炎に関する文献的考察-1 8. マイコプラズマ肺炎に関する文献的考察-2 9. マイコプラズマ肺炎に関する文献的考察-3 10. マイコプラズマ肺炎に関する文献的考察-4 11. マイコプラズマ肺炎発症メカニズムに関する討論-1 12. マイコプラズマ肺炎発症メカニズムに関する討論-2 13. マイコプラズマ肺炎発症メカニズムに関する討論-3 14. マイコプラズマ肺炎発症メカニズムに関する討論-4 15. まとめ
		評価方法	レポート(50%)、口頭試問(40%)、取り組み態度(10%)
血液学演習	東 克巳 (臨床血液学)	講義概要	正常造血細胞の細胞成熟と細胞表面抗原の変化を観察し細胞特性を考察する。また、造血器悪性腫瘍の細胞表面抗原情報との関係について考察し、その応用に関する研究方法を文献検索を含め身につける。
		学習目標	造血器悪性腫瘍の細胞表面抗原による病型分類が出来るよう具体的検索法を習得する。
		授業計画	1. 細胞表面抗原による造血器腫瘍病型分類の仕組み(2回) 2. 正常骨髄細胞の細胞成熟に伴う細胞表面抗原の推移 3. 細胞表面抗原の種々検出法(2回) 4. フローサイトメトリー(2回) 5. フローサイトメーター(FCM)の調整と使用法(2回) 6. FCMによる細胞表面抗原の検索法 7. FCMによる細胞内抗原の検索法 8. 造血器腫瘍の病型分類の演習(4回)
		評価方法	受講態度(40%)、レポート(20%)、口頭試問(40%)

医療倫理学演習	蒲生 忍 (分子生物学)	講義概要	終末期医療における治療の中止や差し控え、生殖補助医療、遺伝子診断などの現在の医療と医学が生み出す様々な医療現場での倫理的な葛藤をテーマに、具体的な事例について討議を中心に進める。事例は米国のHastings Center Reportからとるが、日本の実情に合わせた考察も加える。さらに、討議の結果を倫理委員会の勧告の形式としてまとめる。
		学習目標	医療倫理の諸問題に対する理解の獲得 医療倫理の諸問題に対する解決法の習得
		授業計画	イントロダクション:医療倫理の考え方(2回) 医療倫理に関する事例に関する検討(6事例各2回) 総合討論(1回)
		評価方法	受講態度(50%)、レポート(50%) 特に受講時の積極性、リーダーシップ、レポートにおいては創造性を高く評価する。
		講義概要	ヒトの遺伝に関する調査、家系分析、染色体異常の生成機構、遺伝子、染色体の細胞生物学などの分野からテーマ設定し、研究の現状をまとめて将来への課題を考察する。
		学習目標	院生のテーマに沿って、研究主軸となる領域における基本的な知識や技術を修得する。
人類遺伝学演習	田村 高志 (臨床検査学)	授業計画	1. 研究領域と周辺領域の位置づけ。(3回) 2. 染色体研究法あるいは研究技術の実践。(10回) 3. 研究結果の考察および討論。(2回)
		評価方法	受講態度(40%)、レポート(20%)、口頭試問(40%)

VII. 特別講義

授業科目	担当者	講義概要	
特別講義 I (臨床細胞遺伝学)	関澤 浩一 (健康教育学)	臨床検査としての染色体検査の重要性は、染色体異常症候群の診断や白血病などのがん細胞の診断において従来から変わっていません。ヒト核型分析において正確な検査結果を得るためには、適切な検査方法の選択能や高度な分析技術などに加え、関連する幅広い知識や技術が必要です。また依頼者である医師に対して、診療に必要な遺伝情報を的確に提供できることが求められます。染色体検査の社会的責務を理解するための講義としたいと考えています。	
		学習目標	国際命名規約に従ったヒト核型記載ができ、染色体検査結果として関連する遺伝情報を医師に的確に伝える事ができる。
		授業計画	1. ヒト染色体の遺伝学的基礎 2. 実験設備・機器・試薬 3. 各種ヒト染色体分染法 4. ヒト核型の国際命名規約 ISCN(2009) 5. 染色体異常症候群 6. 染色体不安定性症候群 7. 染色体異常に起因する生殖障害と諸問題 8. 培養細胞株の樹立と凍結保存 9. がんと染色体異常 10. 慢性骨髄性白血病と染色体分析 11. 急性骨髄性白血病と染色体分析 12. 出生前診断と染色体分析および諸問題 13. 着床前診断と染色体分析および諸問題 14. 環境変異原と染色体異常 15. 安全性試験としての染色体異常試験
		評価方法	受講態度(50%)、レポート(40%)、口頭試問(10%)

《今年度休講科目》

- ・実験動物解析技術
- ・分子解剖学演習
- ・分子解剖学セミナー

- ・特別講義 II
- ・特別演習 I
- ・特別演習 II

保健学専攻 博士前期課程

保健・福祉科学分野

I. 基幹科目

授業科目	担当者	講義概要
疫学特論	照屋 浩司 (公衆衛生学)	疫学とは、極論すれば「ものの考え方」のコツを学ぶ学問である。本講では、E B M (Evidence Based Medicine)、臨床疫学などの分野における題材を用いた演習を中心に、疫学の理論について論じるとともに、必要な統計手法についても解説する。また、受講者の希望に応じて疫学のやや基礎的な解説も行う。
		学 習 目 標
		自身の研究や文献の抄読に役立てるために、疫学の基本的な考え方や手法を理解する。
		授 業 計 画
		1. 疫学とは 2. 疫学研究方法 (2回) 3. 因果関係とは 4. 疫学指標と危険度の考え方 (2回) 5. 統計学的解析の基礎 (2回) 6. 疫学研究に伴う誤差 7. 演習 I (3回) 8. 演習 II (2回) 9. まとめ
		評 価 方 法 受講態度 (60%)、レポートないし口頭試問 (40%)
環境保健学特論	金子 哲也 (環境保健学・人類生態学)	講義概要 種々の環境条件による健康影響を、既報論文、公開データを素に議論する。身近な環境から地球環境に至るまで、学術雑誌やインターネットから収集した報告やデータもとに、環境因子と健康指標の関連性について検討を進める。個々人の興味に沿って課題を決め、情報収集から検討・発表までを各自が行うこととする。
		学 習 目 標
		環境因子への曝露が人間の健康に与える影響を、定性的に把握し、定量的に評価するための枠組みを理解し、実際の問題に取り組むための基礎を身につける。
		授 業 計 画
		1. 意識とは何か 2. 脳ヘルニア特に頭蓋内圧との生理学的特徴 (2回) 3. 脳神経外科領域の意識障害患者の神経症候 (2回) 4. 頭部外傷の分類・神経生理と病理・治療法 (2回) 5. 脳血管障害の種類・生理と病理 (2回) 6. 脳梗塞の種類・生理と病理・治療法 (2回) 7. 脳出血の種類・生理と病理・治療法 8. くも膜下出血における種類・生理と病理・治療法 9. その他の脳血管障害の種類・病態生理について 10. まとめ
		評 価 方 法 受講態度 (50%)、レポート (50%)
保健管理学特論	加藤 英世 (母子保健学)	講義概要 近年の地域保健医療の実態と今後の課題について、その展開方法について論述する。さらに、学生間でこれらの課題について討論を行う。
		学 習 目 標
		近年の地域保健医療の実態と今後の課題について、その展開方法について論述する。さらに、学生間でこれらの課題について討論を行う。
		授 業 計 画
		1. 保健管理学総論 2. 日本の健康観 3. 日本の死生観 4. 日本の疾病構造 5. 福祉政策 6. 健康転換 7. 親子の保健福祉 8. 乳幼児の保健福祉 9. 学童・思春期の保健福祉 10. 青年の保健福祉 11. 高齢者の保健福祉 12. 障害児の保健福祉 13. 障害者の保健福祉 14. ターミナルケア 15. 先進国・途上国の保健福祉
		評 価 方 法 受講態度 (50%)、レポート (30%)、口頭試問 (20%)

精神保健学特論	田島 治 (精神保健学)	講 義 概 要	うつ病や不安障害、自殺対策などの問題を中心にメンタルヘルスの現状と課題、今後の方向性について検討し学ぶ。
		学 習 目 標	職場や家庭、学校現場におけるメンタルヘルスの現状と課題を理解し、ポジティブメンタルヘルスとサポーターメンタルヘルスの両面から問題点を分析し支援できることを目標とする。
		授 業 計 画	1. 現代社会におけるメンタルヘルスの現状を知る (3回) 2. 世界における自殺の実態とわが国の状況 (2回) 3. 多様化するうつ病の病像とその対策 (4回) 4. 現代社会の不安と様々な不安障害 (3回) 5. 新たな心の健康のあり方を求めて (2回) 6. まとめ (1回) 計15回
		評 価 方 法	レポート (50%)、口頭試問 (50%)
		講 義 概 要	超高齢社会に向かうわが国にとって、一人ひとりの健康の保持増進に対する意識を高め、健康な生活習慣への行動化を図っていくことは大きな課題である。その実現のためには、子どもたちに対する健康教育の意義は大きく、学校保健組織活動、保健指導、保健学習、学校保健活動の活性化について考える。
学校保健学特論	大嶺 智子 (健康教育学)	学 習 目 標	・子どもの健康課題の変遷を理解し、説明できる。 ・学校保健、保健教育の枠組みを理解し、説明できる。行動化につながる保健教育スキルのキーポイントを整理する。 ・教材研究を通して学校保健活動活性化のヒントを探る。
		授 業 計 画	1. ガイダンス 2. 疾病構造について 3. 教育現場の健康課題 4. 学校保健の枠組み 5. 学校保健組織活動 6. 保健教育実践者 7. 保健室 8. 保健教育 (1) 9. 保健教育 (2) 10. 保健教育 (3) 11. 保健指導の教材研究 (1) 12. 保健指導の教材研究 (2) 13. 保健学習の教材研究 (1) 14. 保健学習の教材研究 (2) 15. まとめ
		評 価 方 法	受講態度 (30%)、レポート (30%)、口頭試問 (40%)
		講 義 概 要	日本人の食をめぐる環境は変化している。食料自給率の低下、固有の食文化の衰退、食品の安全性への不安、食生活の歪みが及ぼす健康への影響など、食を取り巻く問題が山積している。食環境に関連する研究論文を読み進め、現状を把握し問題点や解決の方策を探る。
		学 習 目 標	食環境に関連する科学論文を読み進め、自身の研究や文献の抄読に役立てることを目標とする。
保健栄養学特論	長谷川 めぐみ (公衆衛生学)	授 業 計 画	1 - 5. 世界の中での日本の「食」を学ぶ 6 - 10. 文献抄読 (日本における関連の研究論文) 11 - 15. 文献抄読 (海外における関連の研究論文)
		評 価 方 法	受講態度 (20%)、レポート (40%)、口頭試問 (20%)、その他 (20%)

保健福祉学特論	熊井 利廣 (心理学・社会福祉学)	講義概要	
		少子化の進行、児童虐待の増加など、子どもや子育てをめぐる環境は大きく変化している。子ども、子育ての現状について学び考察する。	
		学習目標	
		子ども、子育ての現状について理解し、それらについて自分の考えを述べるができること。	
		授業計画	
		1. ガイダンス 3. 現代社会と子ども、子育て 2 5. 子育ての歴史から見えるもの 7. 少子化問題 2 9. 児童虐待問題 1 11. 児童虐待問題 3 13. 子どもの貧困問題 2 15. まとめ	2. 現代社会と子ども、子育て 1 4. 現代社会と子ども、子育て 3 6. 少子化問題 1 8. 少子化問題 3 10. 児童虐待問題 2 12. 子どもと貧困問題 1 14. 子どもの貧困問題 3
		評価方法	
		レポート(30%)、口頭試問(70%)	
心理学特論	下島 裕美 (心理学・社会福祉学)	講義概要	
		認知心理学の主要な研究テーマについて文献を読み、議論する。	
		学習目標	
		認知心理学の主要な研究テーマを題材として、(1)認知心理学の研究目的を理解する。(2)認知心理学の研究方法を習得する。(3)結果の解釈と考察について議論する力を身につける。	
		授業計画	
		1. 認知心理学とは何か 3. 注意と意識(2) 5. 短期記憶と長期記憶(2) 7. 潜在記憶(2) 9. 知識と表象(2) 11. 問題解決(2) 13. 推理(2) 15. 感情と認知(2)	2. 注意と意識(1) 4. 短期記憶と長期記憶(1) 6. 潜在記憶(1) 8. 知識と表象(1) 10. 問題解決(1) 12. 推理(1) 14. 感情と認知(1)
		評価方法	
		受講態度(60%)、レポート(40%)	
遺伝教育論	岸 邦和	講義概要	
		ヒトにおける遺伝性疾患の発生頻度や遺伝子突然変異に関わる環境要因などについての現在の知見を紹介する。70年代の知見や高校教科書の記述とのギャップを認識して、遺伝に関する誤解を解消するための方策を考える機会としたい。	
		学習目標	
		1. 遺伝学の基礎知識を修得する。 2. 遺伝学用語のあいまいさを理解する。 3. 遺伝病に対する考え方の時代背景を理解する。 4. 高校教育の国別特徴を理解する。 5. 日本における遺伝教育のあり方の問題点を考察する習慣をつける。	
		授業計画	
		1. 遺伝用語、遺伝様式、形質発現様式など、遺伝の基礎知識の講義(6回) 2. 遺伝用語のあいまいさのまとめ(1回) 3. 著作に見る遺伝病に対する考え方の多様性(2回) 4. 高校の遺伝教育の国際比較(2回) 5. 遺伝性疾患の発生頻度(1回) 6. 遺伝病及び遺伝子診断に関する倫理問題(1回) 7. 種の保存とリスク管理(1回) 8. まとめ(1回)	
		評価方法	
		受講態度(30%)、レポート(30%)、口頭試問(40%)	

II. 高度専門職業人養成科目

授 業 科 目	担 当 者	講 義 概 要
生物統計学演習	照屋 浩司 (公衆衛生学)	<p>集団のデータの基本的な取り扱い方法から、やや高度な生物統計学的手法までについて、模擬データを用いた演習を実施する。統計解析用アプリケーションとしては主にSPSSの使用を予定している。受講者の持ち寄ったデータについて、個々が必要とする統計手法を個別に指導することも行っていきたい。</p>
		<p>学 習 目 標</p> <p>自身の研究や文献の抄読に役立てるために、生物統計学の基本的な考え方や手法を理解する。</p>
		<p>授 業 計 画</p> <p>1. 調査技法 2. 統計学的解析の基礎(2回) 3. クロス表分析 4. 平均値の差の検定と分散分析(2回) 5. 相関と回帰 6. 多変量解析(2回) 7. エクセルを用いた統計処理(2回) 8. SPSSを用いた統計処理(3回) 9. まとめ</p>
		<p>評 価 方 法</p> <p>受講態度(60%)、レポートないし口頭試問(40%)</p>
		<p>講 義 概 要</p> <p>環境因子による健康影響の定量的評価について基本事項を確認する。ついで基本的な統計的手法を整理してから、演習用データについて統計学的なアプローチによる推理を試みる。演習用データ収集または作成に当たっては、社会調査技法の基礎として質問調査票の作成原則、または観測・測定におけるデータ処理の原則についても確認を行う。</p>
		<p>学 習 目 標</p> <p>環境要因への曝露により生じた健康や生活への影響を、数理的、客観的に把握し、評価する力を修得する。</p>
環境影響評価技術	金子 哲也 (環境保健学・人類生態学)	<p>授 業 計 画</p> <p>1. 生物統計学の基礎知識の確認(小試験) 2. 主要関心分野の把握、主題の調整 3. 解析対象データの収集, 仮想データの構築-1 4. 概要把握・推論および解析方針の決定 5. 上記に基づく解析および結果の解釈(1) 6. 上記に基づく解析および結果の解釈(2) 7. 上記に基づく解析および結果の解釈(3) 8. 概要把握・推論および解析方針の決定 9. 解析対象データの収集, 仮想データの構築-2 10. 上記に基づく解析および結果の解釈(1) 11. 上記に基づく解析および結果の解釈(2) 12. 上記に基づく解析および結果の解釈(3) 13. 上記に基づいた総合的解釈 14. 統計的解析手技の総括 15. まとめ</p>
		<p>評 価 方 法</p> <p>受講態度(50%)、レポート(50%)</p>
		<p>講 義 概 要</p> <p>介護保険法改定に伴い、地域包括支援・障害者自立支援の展開が進む中、医療と保健・福祉の多角的視点での取り組みが必要十分条件である。この点をふまえて事例を基に論述する。</p>
		<p>学 習 目 標</p> <p>ライフステージごとの保健福祉の問題を理解し、個人と集団(地域)の施策展開について学ぶ。</p>
		<p>授 業 計 画</p> <p>1. 保健福祉行政総論 2. 保健福祉行政の財政 3. 地域保健行政諸制度 4. 地域保健活動 5. 地域福祉活動 6. 乳幼児保健福祉 7. 児童保健福祉 8. 児童虐待 9. 高齢者保健福祉 10. 地域医療 11. 地域福祉 12. 社会保障(保険制度) 13. 保健・福祉制度 14. 福祉制度 15. 国際保健福祉</p>
		<p>評 価 方 法</p> <p>受講態度(50%)、レポート(30%)、口頭試問(20%)</p>
地域保健福祉論	加藤 英世 (母子保健学)	<p>講 義 概 要</p> <p>介護保険法改定に伴い、地域包括支援・障害者自立支援の展開が進む中、医療と保健・福祉の多角的視点での取り組みが必要十分条件である。この点をふまえて事例を基に論述する。</p>
		<p>学 習 目 標</p> <p>ライフステージごとの保健福祉の問題を理解し、個人と集団(地域)の施策展開について学ぶ。</p>
		<p>授 業 計 画</p> <p>1. 保健福祉行政総論 2. 保健福祉行政の財政 3. 地域保健行政諸制度 4. 地域保健活動 5. 地域福祉活動 6. 乳幼児保健福祉 7. 児童保健福祉 8. 児童虐待 9. 高齢者保健福祉 10. 地域医療 11. 地域福祉 12. 社会保障(保険制度) 13. 保健・福祉制度 14. 福祉制度 15. 国際保健福祉</p>
		<p>評 価 方 法</p> <p>受講態度(50%)、レポート(30%)、口頭試問(20%)</p>
		<p>講 義 概 要</p> <p>介護保険法改定に伴い、地域包括支援・障害者自立支援の展開が進む中、医療と保健・福祉の多角的視点での取り組みが必要十分条件である。この点をふまえて事例を基に論述する。</p>
		<p>学 習 目 標</p> <p>ライフステージごとの保健福祉の問題を理解し、個人と集団(地域)の施策展開について学ぶ。</p>

養護教諭実践論	大嶺 智子 (健康教育学)	講義概要	超高齢社会に向かうわが国にとって、一人ひとりの健康の保持増進に対する意識を高め、健康な生活習慣への行動化を図っていくことは大きな課題である。その実現のためには、子どもたちに対する健康教育の意義は大きく、学校保健組織活動、保健指導、保健学習、学校保健活動の活性化について考える。																
		学習目標	・子どもの健康課題の変遷を理解し、説明できる。 ・学校保健、保健教育の枠組みを理解し、説明できる。行動化につながる保健教育スキルのキーポイントを整理する。 ・教材研究を通して学校保健活動活性化のヒントを探る。																
		授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>2. 疾病構造について</td> </tr> <tr> <td>3. 教育現場の健康課題</td> <td>4. 学校保健の枠組み</td> </tr> <tr> <td>5. 学校保健組織活動</td> <td>6. 保健教育実践者</td> </tr> <tr> <td>7. 保健室</td> <td>8. 保健教育(1)</td> </tr> <tr> <td>9. 保健教育(2)</td> <td>10. 保健教育(3)</td> </tr> <tr> <td>11. 保健指導の教材研究(1)</td> <td>12. 保健指導の教材研究(2)</td> </tr> <tr> <td>13. 保健学習の教材研究(1)</td> <td>14. 保健学習の教材研究(2)</td> </tr> <tr> <td>15. まとめ</td> <td></td> </tr> </table>	1. ガイダンス	2. 疾病構造について	3. 教育現場の健康課題	4. 学校保健の枠組み	5. 学校保健組織活動	6. 保健教育実践者	7. 保健室	8. 保健教育(1)	9. 保健教育(2)	10. 保健教育(3)	11. 保健指導の教材研究(1)	12. 保健指導の教材研究(2)	13. 保健学習の教材研究(1)	14. 保健学習の教材研究(2)	15. まとめ	
		1. ガイダンス	2. 疾病構造について																
		3. 教育現場の健康課題	4. 学校保健の枠組み																
		5. 学校保健組織活動	6. 保健教育実践者																
7. 保健室	8. 保健教育(1)																		
9. 保健教育(2)	10. 保健教育(3)																		
11. 保健指導の教材研究(1)	12. 保健指導の教材研究(2)																		
13. 保健学習の教材研究(1)	14. 保健学習の教材研究(2)																		
15. まとめ																			
評価方法	受講態度(30%)、レポート(30%)、口頭試問(40%)																		
精神保健分析 支援技術	田島 治 (精神保健学) 下島 裕美 (心理学・社会福祉学)	講義概要	従来からのカウンセリング的なアプローチだけでなく、最近注目されている認知行動療法的な側面からの理解やサポート、問題解決技法、対人関係療法等についてその現状と課題を知る。																
		学習目標	様々な悩みや精神疾患、障害を有する事例に対して、適切な心理アセスメントと援助を行うことが出来る知識と技術を獲得する。																
		授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 治療的面接の基本と技術(3回)</td> <td>2. 心理アセスメントの実際(4回 下島担当)</td> </tr> <tr> <td>3. カウンセリングの実際(3回)</td> <td>4. 認知行動療法の理論と実際(3回)</td> </tr> <tr> <td>5. その他の心理的支援技法(1回)</td> <td>6. まとめ(1回) 計15回</td> </tr> </table>	1. 治療的面接の基本と技術(3回)	2. 心理アセスメントの実際(4回 下島担当)	3. カウンセリングの実際(3回)	4. 認知行動療法の理論と実際(3回)	5. その他の心理的支援技法(1回)	6. まとめ(1回) 計15回										
		1. 治療的面接の基本と技術(3回)	2. 心理アセスメントの実際(4回 下島担当)																
		3. カウンセリングの実際(3回)	4. 認知行動療法の理論と実際(3回)																
		5. その他の心理的支援技法(1回)	6. まとめ(1回) 計15回																
評価方法	単位認定者(田島先生):レポート(50%)、口頭試問(50%)																		
食品栄養 解析技術	長谷川 めぐみ (公衆衛生学) 平岡 厚 (健康教育学)	講義概要	栄養学、食品学、家政学、生活科学はもとより、医学、農学、薬学等の研究分野において広く活用されている「食品成分表」の概要を学び、我が国及び世界における食品成分解析についてEBNの概念に基づいて、公衆栄養学、環境保健学・人類生態学、細胞遺伝学の各分野別に学ぶ。																
		学習目標	自身の研究や文献の抄読に役立てることを目標とする。																
		授業計画	<table border="0"> <tr> <td colspan="2">1 - 5講 公衆栄養学の分野から(15回実施)</td> </tr> <tr> <td>1. 食品成分表とは</td> <td>2. 日本と世界の食品成分表の比較</td> </tr> <tr> <td>3. 食品栄養成分解析技術の化学的根拠</td> <td>4. 関連文献抄読(1)</td> </tr> <tr> <td>5. 関連文献抄読(2)</td> <td></td> </tr> </table>	1 - 5講 公衆栄養学の分野から(15回実施)		1. 食品成分表とは	2. 日本と世界の食品成分表の比較	3. 食品栄養成分解析技術の化学的根拠	4. 関連文献抄読(1)	5. 関連文献抄読(2)									
		1 - 5講 公衆栄養学の分野から(15回実施)																	
		1. 食品成分表とは	2. 日本と世界の食品成分表の比較																
		3. 食品栄養成分解析技術の化学的根拠	4. 関連文献抄読(1)																
5. 関連文献抄読(2)																			
評価方法	単位認定者(長谷川先生):受講態度(20%)、レポート(40%)、口頭試問(20%)、その他(20%)																		

保健福祉制度論	熊井 利廣 (心理学・社会福祉学)	講義概要	子ども、子育ての現状を踏まえ、子ども家庭支援の制度、法律、行政について検討し考察する。
		学習目標	子ども、子育ての現状を踏まえたうえで、子ども家庭支援の制度、法律、行政について理解し、それらについて自分の考えを述べるができること。
		授業計画	1. ガイダンス 2. 日本の子ども家庭福祉の歴史1 3. 日本の子ども家庭福祉の歴史2 4. 児童福祉法の成立過程 5. 子ども家庭福祉の諸機関1 6. 子ども家庭福祉の諸機関2 7. 少子化対策の系譜1 8. 少子化対策の系譜2 9. 児童虐待防止対策1 10. 児童虐待防止対策2 11. 児童虐待防止対策3 12. 地域における子ども家庭福祉の取り組み1 13. 地域における子ども家庭福祉の取り組み2 14. 地域における子ども家庭福祉の取り組み3 15. まとめ
		評価方法	
			レポート(30%)、口頭試問(70%)

III. ジャーナルクラブ

授業科目	担当者	講義概要	
疫学セミナー	照屋 浩司 (公衆衛生学) 金子 哲也 (環境保健学・人類生態学)	疫学的な研究手法を用いた各領域の英文の原著論文、疫学の方法論に関する英文の成書などの抄読およびセミナー形式のディスカッションを通して疫学についての理解を深める。	
		学習目標	良質な英文の原著論文等を読みこなすことが出来るということが第一の目標であり、第二の目標として疫学に関しての理解を深めるということが挙げられる。
		授業計画	1. 生活習慣病に関する疫学の領域から(照屋:8回) 2. 環境疫学、産業疫学の領域から(金子:7回)
		評価方法	
			単位認定者(照屋先生):受講態度(60%)、レポートないし口頭試問(40%)
学校保健セミナー	大嶺 智子 (健康教育学) 加藤 英世 (母子保健学)	講義概要	Journal of School Health及び学校保健研究原著論文を元に、現代の学校保健関連課題を討議する。
		学習目標	School Healthの概念を理解し、学校保健の現状把握と今後の課題を理解する。
		授業計画	1. Journal of School Health 輪読(6回)(加藤、大嶺) 2. 学校保健研究 輪読(5回)(大嶺) 3. 受講生の研究テーマの関連文献Abstract紹介(4回)(加藤)
		評価方法	
			単位認定者(加藤先生):受講態度(50%)、口頭試問(50%)
精神医学セミナー	田島 治 (精神保健学) 下島 裕美 (心理学・社会福祉学)	講義概要	欧米の一流雑誌から最新の情報を取り上げて、批判的に論文を読むとともに、ディスカッションを行う。
		学習目標	精神医学および心理学に関する欧米の一流雑誌から関心を有する領域の最新の研究論文を選び、批判的に読むことが出来るようになることを目標とする。
		授業計画	1. うつ病やその他の気分障害に関する論文(3回) 2. 不安障害その他ストレス関連障害に関する論文(3回) 3. 発達障害やパーソナリティ障害に関する論文(2回 下島担当) 4. 統合失調症および他の精神病性障害に関する論文(2回) 5. 認知症および他の器質性精神障害に関する論文(2回) 6. 心理学関連の論文(3回 下島担当) 計15回
		評価方法	
			単位認定者(田島先生):レポート(50%)、口頭試問(50%)

《今年度休講科目》

- ・特別講義Ⅰ
- ・特別演習Ⅰ
- ・国際保健学
- ・特別講義Ⅱ
- ・特別演習Ⅱ
- ・人類生態学特論

循環器病学 特論	四倉 正之 (循環器病態生理学)	講義概要	虚血性心疾患および不整脈の病態と治療に関する基礎知識および最近の知見を解説する。
		学習目標	虚血性心疾患の基礎知識と最近の知見を習得する。 不整脈の病態および治療の基礎知識と最近の知見を習得する。
		授業計画	1. 虚血性心疾患の病態 2. 虚血性心疾患の診断法 3. 虚血性心疾患の薬物療法 4. 虚血性心疾患のPCI 5. 虚血性心疾患の合併症 6. 虚血性心疾患のトピックス 7. 不整脈の基礎 8. 上室性不整脈 9. 心室性不整脈 10. 徐脈性不整脈 11. その他の不整脈 12. 電気生理学的検査 13. 不整脈の薬物療法 14. 不整脈の非薬物療法 15. 不整脈のトピックス
		評価方法	受講態度(20%)、レポート(40%)、口頭試問(40%)
臨床 神経生理学	小池 秀海 (神経生理学)	講義概要	神経系の機能を理解するために必要な神経生理学の基礎的な知識を、細胞レベルから高次脳機能に至るレベルまで整理して講義する。
		学習目標	神経系の活動について受容体レベルから大脳の高次神経活動についてその特徴を説明することができる。
		授業計画	1. 脳脊髄の構造 2. 神経系における情報伝達の仕組み(2回) 3. 視覚系の生理学(3回) 4. 体性感覚系の生理学 5. 聴覚・平衡覚の生理学 6. 運動系の生理学(3回) 7. 意識・注意の生理学(2回) 8. 記憶・学習の生理学 9. 総合討論
		評価方法	受講態度(60%)、レポート(40%)

II. 高度専門職業人養成科目

授業科目	担当者	講義概要	
医用基礎工学	嶋津 秀昭 (生理・生体工学・ 医用情報工学) 小林 博子 (生理・生体工学)	1. 医療系学生のための物理学 2. 単位論と工学の概論 3. 工学的立場から考える生理学的現象	
		学習目標	医学的な知識を単に網羅的に記憶することから離れて、工学的立場に立脚して理論的な観点から生命現象を見直すことができる。
		授業計画	1 - 2 サイエンスにおける単位の意味(2回)(嶋津) 3 - 4. 工学単位とディメンジョン(嶋津) 5 - 7. 物理学から工学へ(嶋津) 8 - 9. 材料とその性質(2回)(小林) 10. 物理的エネルギーと生体作用(小林) 11. 物質の成り立ちと生命現象(小林) 12 - 14. 流体力学の基礎(4回)(嶋津) 15. 循環系と流体力学(3回)(嶋津)
		評価方法	単位認定者(小林先生):受講態度(50%)、レポート(50%)
先端臨床工学 特論	中島 章夫 (先端臨床工学)	講義概要	医療機器やシステムの開発・基礎研究に必要な知識を身に付けることを目的とし、現在の臨床工学関連のTopics、先端研究紹介を交えた講義とする。また今後必要とされる臨床工学研究・発表能力を高めるためのTipsの提供や、関連の研究会・機器展示会参加による意見交換会などを行う。
		学習目標	各種医療機器の原理構造を理解し、医療機器開発などの研究を行う上で必要な知識を身につける。
		授業計画	1. ガイダンス 2 - 7. 臨床工学関連研究発表事例紹介 8. 事例紹介総合討論 9 - 13. 先端研究・学会発表事例紹介 14. 先端研究総合討論 15. 口頭試験
		評価方法	受講態度(10%)、レポート(40%)、口頭試問(50%)

医用情報 システム工学 特論	田中 薫 (医用情報工学)	講義概要	コンピュータによる情報処理の仕組みとシステムの実際について理解を深める。各種センサや出力機器を接続したマイコンボードおよびレゴマインドストームのプログラミングを行う。
		学習目標	学生自身でコンピュータの周辺回路を設計し組み立てる。併せてこれらを目的に沿った動作が出来るようプログラムを作成する。また、フィードバックなどシステムについて理解する。
		授業計画	1. マイクロプロセッサについて 2. 周辺回路設計(2回) 3. センサ回路(2回) 4. 出力回路(2回) 5. プログラミングの基本(2回) 6. プログラミングの応用(2回) 7. デバッグとシステムの評価(3回) 8. まとめ
		評価方法	受講態度(20%)、レポート(80%)
血液浄化療法学	副島 昭典 (血液浄化療法学)	講義概要	血漿の還元能の低下が血液透析によって改善される機序と腎不全の病態との関連を明らかにする。
		学習目標	セルロースアセテート膜を用いる実験的な透析操作を行なうことで透析の原理を体得する。
		授業計画	1 - 3. 酸化/還元電位とpHの測定 4 - 6. 種々の透析液の調整 7 - 9. アルブミンの分画測定 10 - 12. 還元試薬の添加による影響 13 - 14. 統計処理とグラフの作成 15. まとめ
		評価方法	受講態度(10%)、レポート(60%)、口頭試問(30%)
循環器 病態生理学	四倉 正之 (循環器病態生理学)	講義概要	心電学の基礎知識と実践的知識と臨床応用に関する解説。
		学習目標	1. 標準12誘導心電図、2. 微小電位心電図、3. 運動負荷心電図、4. ホルター心電図の基礎知識を習得し、それぞれを診断できるようになる。
		授業計画	1. 心電図の基礎(3回) 2. 虚血性心疾患(2回) 3. 不整脈(3回) 4. 診断演習(4回) 5. 微小電位心電図 6. 運動負荷心電図 7. ホルター心電図
		評価方法	受講態度(20%)、レポート(40%)、口頭試問(40%)
神経電気診断 技術	小池 秀海 (神経生理学)	講義概要	現在臨床的に最も広く用いられている末梢神経電気診断から誘発電位検査、脳波検査および事象関連電位の各分野における最近の進歩と動向について学ぶとともに、実際の検査場面における注意点、問題点を確認し、対処方法を検討する。学部教育で既に脳波、筋電図、誘発電位の講義と実習を受けていることが受講の条件である。
		学習目標	末梢神経伝導検査、誘発電位検査、脳波検査、および事象関連電位(P300, N170など)の原理、方法、適応と限界、正常所見と主な異常所見が理解できる。
		授業計画	1. 末梢神経の解剖 2. 神経系における情報伝達の仕組み 3. 末梢神経伝導検査(2回) 4. 視覚誘発電位検査(2回) 5. 体性感覚誘発電位検査(2回) 6. 聴覚誘発電位検査 7. 脳波検査(3回) 8. 事象関連電位(2回) 9. 総合討論
		評価方法	受講態度(50%)、レポート(50%)

III. ジャーナルクラブ

授 業 科 目	担 当 者	講 義 概 要
生理学・ 医用基礎工学 セミナー	嶋 津 秀 昭 (生理・生体工学・ 医用情報工学)	授業科目に示すようなテーマを中心に、生理学や医用工学の知識を活用しながら、幅広い領域について考察する力を養う。その過程で、知識の不足を感じたり、勉強法やその方法を理解する。
		学 習 目 標
		生理学と工学の境界領域に関わる様々な領域を対象に、重要な話題を提供して活発な議論を進めながら知識の応用力の向上を目指す。
		授 業 計 画
		毎回、個別のテーマを提示するので、その都度、その時点での知識に基づいて考察する。テーマは随時提供するが、例えば、1 - 3. 人の感覚を定量的に分析することができるか、4 - 8. 人体の性能と人の犯す誤りとの関係性について、9 - 11. 病室における患者のモニターについて(プライバシーと患者の管理とのバランス)、13 - 15. 各種操作パネルの進化と人間の能力
評 価 方 法	受講態度(50%)、レポート(50%)	
腎臓病学・ 血液浄化療法 セミナー	副 島 昭 典 (血液浄化療法学)	講 義 概 要
		血液浄化法や腎臓病学の英語論文を読んで、その内容を引用論文を交えて発表する。
		学 習 目 標
		自ら考えて理論的な構成に基づき発表ができる能力を身につける。
		授 業 計 画
セミナーは毎週開講する。一月に一回は履修者全員の前で論文の内容を発表し、質疑応答を行う。不十分な点があった場合には翌週に追加の発表を行なう。合計で15回実施する。		
評 価 方 法	受講態度(10%)、レポート(30%)、口頭試問(60%)	
循環器病態 生理学セミナー	四 倉 正 之 (循環器病態生理学)	講 義 概 要
		循環器系に関する最近の英文論文の輪読と解説。
		学 習 目 標
		英文論文を多数読み込むことにより、1英文論文の読解力を培うとともに2循環器系の最新の知見を得る。
		授 業 計 画
週に1編の論文を精読し(全部で15編)、週に1回内容について発表する。指導者はその論文について解説し、さらに周辺領域の知識も解説する。(15回実施)		
評 価 方 法	受講態度(40%)、レポート(30%)、口頭試問(30%)	
神経生理学 セミナー	小 池 秀 海 (神経生理学)	講 義 概 要
		臨床神経生理学に関する最新英文論文を講読する。とくに修士課程では総説を中心に幅広い知識の吸収に努める。
		学 習 目 標
		Nature, Science, Neurology, Ann Neurolなどの神経学の代表的な英文誌から神経生理学関連の総説論文を読み、その内容を各自他の学生に紹介し討論できる。
		授 業 計 画
セミナーは毎週開講する。毎週、学生は与えられた英文論文をセミナーまでに読み、その内容を紹介した後、質疑と討論をする。(15回実施)		
評 価 方 法	毎回の論文紹介の内容と質疑・討論での態度で理解度を評価する(100%)	

《今年度休講科目》

- ・特別講義 I ・特別講義 II
- ・特別演習 I ・特別演習 II
- ・臨床ME学 ・臨床ME学セミナー

保健学専攻 博士前期課程

救急救命学分野

I. 基幹科目

授業科目	担当者	講義概要
中毒学特論 (NBCtero)	和田 貴子 (救急救命学)	救急救命士に必要なNBCR ; N(核兵器)、B(生物兵器)、C(化学兵器)及びR(放射能兵器)テロに関する一般的知識および対処法について教授する。
		学 習 目 標
		救急救命士に必要なNBCR ; N(核兵器)、B(生物兵器)、C(化学兵器)及びR(放射能兵器)テロに関する一般的知識および対処法のポイントを修得する。
		授 業 計 画
		1. NBCRテロ総論 2. NBCRテロに関する歴史 3. 化学剤の概要(その1) 4. 化学剤の概要(その2) 5. 放射線・核兵器の概要(その1) 6. 放射線・核兵器の概要(その2) 7. 生物剤の概要(その1) 8. 生物剤の概要(その2) 9. 化学テロへの対処(その1) 10. 化学テロへの対処(その2) 11. 放射線・核兵器テロへの対処(その1) 12. 化学剤の医療対処 13. 生物剤の医療対処 14. 放射線障害の医療対処 15. まとめ
評 価 方 法	プレゼンテーション (100%)	
脳神経外科学特論	小西 善史 (神経機能制御外科学)	講義概要
		救急救命士あるいはそれに準ずる社会人を対象に、特に脳血管障害症候に対する状況判断、バイタルサインを中心に、それに関連した解剖、生理を復習し、また外科的な治療の概要まで踏み込んだ判断を講義する。
		学 習 目 標
		脳血管障害傷病者の対策
		授 業 計 画
1. 意識とは何か 2. 脳ヘルニア特に頭蓋内圧との生理学的特徴(2回) 3. 脳神経外科領域の意識障害患者の神経症候(2回) 4. 頭部外傷の分類・神経生理と病理・治療法(2回) 5. 脳血管障害の種類・生理と病理(2回) 6. 脳梗塞の種類・生理と病理・治療法(2回) 7. 脳出血の種類・生理と病理・治療法 8. くも膜下出血における種類・生理と病理・治療法 9. その他の脳血管障害の種類・病態生理について 10. まとめ		
評 価 方 法	受講態度(20%)、レポート(60%)、口頭試問(10%)、その他(10%)	

II. 高度専門職業人養成科目

授業科目	担当者	講義概要
救急・ 集中治療学	和田 貴子 (救急救命学)	救急・集中治療領域で必要な病院内での重症患者の診かた、診察の仕方、治療方法を中心に、解剖、生理なども含んだ患者管理を教授する。救急・集中治療現場で必要とされるX線、CT、MRI、超音波検査など画像の見方を教授する。
		学 習 目 標
		重症患者管理(循環管理、呼吸管理、体液管理および患者管理に必要な画像の見方など)のポイントを修得すること。
		授 業 計 画
		1. 重症患者における予防措置 2. 血管アクセス 3. 血行動態モニタリング 4. 循環血流の障害 5. 急性呼吸不全 6. 人工呼吸 7. 酸塩基平衡障害 8. 体温の異常 9. ICUにおける炎症と感染 10. 栄養と代謝 11. 画像の見方(基本) 12. 画像の見方(胸腹部X線) 13. 画像の見方(頭部、胸腹部CT) 14. 画像の見方(超音波検査) 15. 画像の見方(MRI)
評 価 方 法	筆記試験(90%)、受講態度(10%)	

プレホスピタル 外傷学	和田 貴子 (救急救命学)	講義概要	病院前医療において、1. 外傷患者の重症度を的確に判断し、2. その重症度に応じた適切な医療機関に、3. 迅速な搬送をする、という理論と救護の手順を標準化した教育プログラムを中心に学ぶ。																
		学習目標	病院前医療における、外傷患者の重症度と適切な医療機関に迅速な搬送をする、ポイントを修得すること。																
		授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 疫学、外傷システム及び外傷の分類と重症度評価</td> <td>2. 現場における観察・処置の流れ</td> </tr> <tr> <td>3. 観察処置の手順、安全確保 車内活動</td> <td>4. 全身観察、傷病者固定と搬送開始、</td> </tr> <tr> <td>5. 外傷現場での感染防御</td> <td>6. 外傷キット、状況評価</td> </tr> <tr> <td>7. 初期評価と蘇生処置</td> <td>8. 全身観察と緊急処置</td> </tr> <tr> <td>9. 重点観察と穿通外傷</td> <td>10. ログロールと全脊柱固定</td> </tr> <tr> <td>11. 各論(CPA、体温低下、脊椎脊髄損傷)</td> <td>12. 頭部外傷、顔面・前頭部外傷</td> </tr> <tr> <td>13. 胸部外傷</td> <td>14. 腹部外傷</td> </tr> <tr> <td>15. その他の外傷と多数傷病者</td> <td></td> </tr> </table>	1. 疫学、外傷システム及び外傷の分類と重症度評価	2. 現場における観察・処置の流れ	3. 観察処置の手順、安全確保 車内活動	4. 全身観察、傷病者固定と搬送開始、	5. 外傷現場での感染防御	6. 外傷キット、状況評価	7. 初期評価と蘇生処置	8. 全身観察と緊急処置	9. 重点観察と穿通外傷	10. ログロールと全脊柱固定	11. 各論(CPA、体温低下、脊椎脊髄損傷)	12. 頭部外傷、顔面・前頭部外傷	13. 胸部外傷	14. 腹部外傷	15. その他の外傷と多数傷病者	
		1. 疫学、外傷システム及び外傷の分類と重症度評価	2. 現場における観察・処置の流れ																
		3. 観察処置の手順、安全確保 車内活動	4. 全身観察、傷病者固定と搬送開始、																
5. 外傷現場での感染防御	6. 外傷キット、状況評価																		
7. 初期評価と蘇生処置	8. 全身観察と緊急処置																		
9. 重点観察と穿通外傷	10. ログロールと全脊柱固定																		
11. 各論(CPA、体温低下、脊椎脊髄損傷)	12. 頭部外傷、顔面・前頭部外傷																		
13. 胸部外傷	14. 腹部外傷																		
15. その他の外傷と多数傷病者																			
評価方法	筆記試験(90%)、受講態度(10%)																		
講義概要	脳神経系の外傷につき、脳機能の評価方法を踏まえて救命士に必要な知識を習得する。																		
神経外傷学	小西 善史 (神経機能制御外科学)	学習目標	頭部外傷患者の観察に重要な点が説明できること。特に傷病者の呈している神経症候の意義が理解できる。																
		授業計画	頭部外傷の疫学(2回)、頭部外傷患者に高頻度に認められる神経症候(6回)、症例の検討(7回)、まとめ(15回実施)																
		評価方法	受講態度(20%)、レポート(40%)、口頭試問(40%)																
		講義概要																	
		学習目標																	
神経症候学	小池 秀海 (神経生理学)	講義概要	救急救命士および看護師の資格を有している学生を対象に、神経系が侵された場合に出現する症候を解説する。特に今年度は運動系の障害について講義する。																
		学習目標	運動系の解剖および生理学を学んだ後、麻痺、運動失調、筋緊張、不随意運動、姿勢・歩行障害が理解できる。																
		授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 運動系の解剖と生理学の基礎(3回)</td> <td>2. 運動麻痺(2回)</td> </tr> <tr> <td>3. 眼球運動および瞳孔の症候学(2回)</td> <td>4. 顔面麻痺、球麻痺</td> </tr> <tr> <td>5. 不随意運動</td> <td>6. 筋緊張異常</td> </tr> <tr> <td>7. 大脳基底核障害(2回)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 小脳障害(2回)</td> <td>9. 姿勢・歩行障害</td> </tr> </table>	1. 運動系の解剖と生理学の基礎(3回)	2. 運動麻痺(2回)	3. 眼球運動および瞳孔の症候学(2回)	4. 顔面麻痺、球麻痺	5. 不随意運動	6. 筋緊張異常	7. 大脳基底核障害(2回)		8. 小脳障害(2回)	9. 姿勢・歩行障害						
		1. 運動系の解剖と生理学の基礎(3回)	2. 運動麻痺(2回)																
		3. 眼球運動および瞳孔の症候学(2回)	4. 顔面麻痺、球麻痺																
5. 不随意運動	6. 筋緊張異常																		
7. 大脳基底核障害(2回)																			
8. 小脳障害(2回)	9. 姿勢・歩行障害																		
評価方法	受講態度(50%)、レポート(50%)																		
学習目標																			

III. ジャーナルクラブ

授業科目	担当者	講義概要
救急医学・ 中毒学 セミナー	和田 貴子 (救急救命学)	救急医学及び中毒学に関する文献を抄読する。
		学習目標
		救急医療・中毒学に関する最新文献を講読する。毎月の雑誌を検索し注目すべき論文を選択するのみならず、トピックスになっているテーマや自分が遭遇した傷病者に関するテーマを設定して関連する論文を数編紹介し、多くの論文に接する。
		授業計画
		セミナーは毎週開講する。少なくとも、月1回は履修者全員の前で論文の内容について発表し、その内容について質疑と討論をする。(15回実施)
評価方法	筆記試験(90%)、受講態度(10%)	

脳神経外科学 セミナー	小西 善史 (神経機能制御外科学)	講義概要	脳神経外科に関する特に救急医学に関する最新文献を講読し雑誌を検索し注目すべき論文を、毎月決まったテーマを設定して関連する論文を数編紹介し、このテーマごとに討論する。より高度な技術・最新の知識を習得する。
		学習目標	脳神経外科学の代表的な英文・邦文誌からの論文を毎月最低1篇読み、その内容を発表する。
		授業計画	セミナーは毎週開講する。少なくとも、月1回は履修者全員の前で論文の内容について発表し、その内容について質疑と討論をする。(15回実施)
		評価方法	受講態度(20%)、レポート(60%)、口頭試問(10%)、その他(10%)

IV. 特別講義

授業科目	担当者	講義概要	
特別講義 I (中枢神経系障害学)	潮見 泰蔵 (神経発達障害系 理学療法学)	本講義では、脳損傷後の機能回復を促進する因子について理解する。また機能回復評価学および治療学として、脳血管障害に対する基本的理解(病態、評価、治療、リハビリテーション)に関する基礎的研究とその方法論について教授する。特に、リハビリテーションの領域では脳損傷患者における機能的運動課題達成のための戦略的アプローチについて紹介する。さらに、近年、神経科学を基盤とするニューロリハビリテーションという新しい領域に関する研究成果についても紹介し、その理解を深める。	
		学習目標	脳の可塑性と機能回復の関係について学習する。 機能回復のメカニズムとその促進因子について学習する。 機能回復に関与する運動学習および運動制御の諸理論とその応用について学習する。機能的動作の獲得を目標とした治療的介入について学習する。 ニューロリハビリテーションにに関連した最新の研究論文を読み、検討を加える。
		授業計画	1. 脳卒中の病態 3. 脳損傷後の機能回復機序② 5. 脳卒中患者の評価と治療② 7. 脳損傷後の機能回復を促進する因子① 9. 機能回復に関連する運動学習理論とその応用 10. 機能回復に関連する運動制御理論とその応用 11. 脳損傷後の機能的運動課題達成のための戦略① 12. 脳損傷後の機能的運動課題達成のための戦略② 13. ニューロリハビリテーションにおける基礎研究 14. ニューロリハビリテーションと理学療法に関連 15. まとめ
		評価方法	2. 脳損傷後の機能回復機序① 4. 脳卒中患者の機能評価と治療① 6. 脳卒中患者の機能評価と治療③ 8. 脳損傷後の機能回復を促進する因子②
			レポート(30%)、プレゼンテーション(40%)、口頭試問(30%)
特別講義 I (認知障害系作業療法学)	下田 信明 (認知障害 作業療法学)	講義概要	認知症により特徴的に引き起こされる機能・活動および生活の障害に対する評価ならびに具体的介入について教授する。
		学習目標	認知症の病型・診断、認知症により特徴的に引き起こされる機能・活動および生活の障害に対する評価ならびに具体的介入について理解する。
		授業計画	1. 認知症者を取り巻く社会 3. 記憶の障害と評価 5. 行為・遂行機能の障害と評価 7. 活動の障害と評価 9. 介入・対応の基本 11. 介入: 回想・ゲーム 13. 介入: 日常生活活動(その2) 15. まとめ
		評価方法	2. 病型・診断 4. 言語・視空間性機能の障害と評価 6. 感情・思考機能の障害と評価 8. 生活の障害と評価 10. 介入: 音楽・運動・学習的活動 12. 介入: 日常生活活動(その1) 14. 介入: 趣味・しごきの活動
			受講態度(20%)、レポート(60%)、プレゼンテーション(20%)

特別講義Ⅱ (血液・内臓器系障害学)	八並 光信 (内部障害系理学療法学)	講義概要	主に内臓器疾患および血液疾患による身体的ディコンディショニングについて学習する。また、将来的に理学療法へのニーズが高まる造血幹細胞移植や生体肝部分移植などの先進医療における理学療法の関わり方について教授する。	
		学習目標	内部疾患の病態および薬物療法について理解する。特に臓器移植に関しては、移植治療の概要と免疫抑制剤の副作用を理解する。	
		授業計画	1. 内部障害系理学療法の対象疾患 2. 呼吸器疾患(COPD)の病態と医学的治療 3. 呼吸器疾患の理学療法 4. 心疾患(AMI)の病態と医学的治療 5. 心疾患の理学療法 6. 糖尿病の病態整理と医学的治療 7. 糖尿病の理学療法 8. 肝硬変および肝癌の病態と医学的治療 9. 生体肝部分移植における理学療法 10. 白血病の病態医学的治療 11. 造血幹細胞移植の基礎的概念 12. 造血幹細胞移植の理学療法 13. 拒絶反応と生着不全 14. 免疫抑制剤の作用と副作用について 15. GVHDとウィルス感染時の理学療法	
		評価方法	受講態度(20%)、レポート(60%)、プレゼンテーション(20%)	
		講義概要	中枢神経障害における作業療法評価法および治療法について講義する。また、関連論文を選び、その研究デザインや結果について討論する。	
		学習目標	中枢神経障害における作業療法評価法および治療法について理解する。また、作業療法介入における中枢神経系の可塑的变化について理解する。	
特別講義Ⅱ (中枢神経障害作業療法学)	丹羽 正利 (中枢神経障害作業療法学)	授業計画	1. 中枢神経系の理解 (3回) 2. 中枢神経障害の理解 (3回) 3. 中枢神経障害の回復機序 4. 中枢神経障害の評価法 (2回) 5. 中枢神経障害の作業療法 (3回) 6. 高次脳機能障害の概要 7. 高次脳機能障害の評価と介入 8. 中枢神経障害に対する作業療法の今後	
		評価方法	レポート(50%)、プレゼンテーション(30%)、受講態度(20%)	
		講義概要	骨・関節・神経・筋の機能異常に対する評価およびマネージメントについて考察する。	
		学習目標	骨・関節・神経・筋の機能異常に対する評価・マネージメントについて説明でき、実施できる。	
		授業計画	1. クリニカルリーズニング 2. 主観的検査 3. 客観的検査の総論 4. 腰椎1 5. 腰椎2 6. 股関節 7. 膝関節 8. 足関節・足部 9. 肩甲帯・肩関節 10. 肘関節 11. 手関節・手指 12. 頸椎 13. 胸椎 14. 骨盤 15. まとめ	
		評価方法	授業態度(40%)、レポート(40%)、プレゼンテーション(20%)	
特別演習Ⅰ (運動障害系理学療法学)	齋藤 昭彦 (運動障害系理学療法学)	講義概要	精神障害領域における作業療法について概説し、構成的評価、非構成的評価の両方を踏まえながら、精神障害作業療法の特質について教授する。	
		学習目標	精神障害領域における作業療法の治療構造、理論、具体的介入方法について理解する。精神科病院内、地域における作業療法の役割について理解する。	
		授業計画	1. 精神の障害とは何か? 2. 我が国の精神保健の歩み 3. 精神障害作業療法の構造 4. 精神障害作業療法における構成的評価 5. 精神障害作業療法における非構成的評価(1) 6. 精神障害作業療法における非構成的評価(2) 7. 精神障害作業療法における非構成的評価(3) 8. 作業療法計画の立案 9. 回復状態と作業療法 10. 統合失調症と作業療法 11. 長期入院者への生活支援 12. 地域生活支援と作業療法 13. 精神障害領域における就労支援と作業療法 14. 精神障害作業療法と理論 15. これからの精神障害作業療法	
		評価方法	受講態度(20%)、レポート(60%)、プレゼンテーション(20%)	
		講義概要	精神障害領域における作業療法について概説し、構成的評価、非構成的評価の両方を踏まえながら、精神障害作業療法の特質について教授する。	
		学習目標	精神障害領域における作業療法の治療構造、理論、具体的介入方法について理解する。精神科病院内、地域における作業療法の役割について理解する。	
特別演習Ⅰ (精神障害作業療法学)	長谷川 利夫 (精神障害作業療法学)	授業計画	1. 精神の障害とは何か? 2. 我が国の精神保健の歩み 3. 精神障害作業療法の構造 4. 精神障害作業療法における構成的評価 5. 精神障害作業療法における非構成的評価(1) 6. 精神障害作業療法における非構成的評価(2) 7. 精神障害作業療法における非構成的評価(3) 8. 作業療法計画の立案 9. 回復状態と作業療法 10. 統合失調症と作業療法 11. 長期入院者への生活支援 12. 地域生活支援と作業療法 13. 精神障害領域における就労支援と作業療法 14. 精神障害作業療法と理論 15. これからの精神障害作業療法	
		評価方法	受講態度(20%)、レポート(60%)、プレゼンテーション(20%)	
		講義概要	精神障害領域における作業療法について概説し、構成的評価、非構成的評価の両方を踏まえながら、精神障害作業療法の特質について教授する。	
		学習目標	精神障害領域における作業療法の治療構造、理論、具体的介入方法について理解する。精神科病院内、地域における作業療法の役割について理解する。	
		授業計画	1. 精神の障害とは何か? 2. 我が国の精神保健の歩み 3. 精神障害作業療法の構造 4. 精神障害作業療法における構成的評価 5. 精神障害作業療法における非構成的評価(1) 6. 精神障害作業療法における非構成的評価(2) 7. 精神障害作業療法における非構成的評価(3) 8. 作業療法計画の立案 9. 回復状態と作業療法 10. 統合失調症と作業療法 11. 長期入院者への生活支援 12. 地域生活支援と作業療法 13. 精神障害領域における就労支援と作業療法 14. 精神障害作業療法と理論 15. これからの精神障害作業療法	
		評価方法	受講態度(20%)、レポート(60%)、プレゼンテーション(20%)	

特別演習Ⅱ (運動器系障害学)	榎本 雪絵 (運動障害系理学療法学)	講義概要
		高齡化社会における障害・要介護者に対する医療・保健・福祉システムの現状と課題、地域社会を基盤として行われるリハビリテーション各分野における理学療法について検討する。
		学習目標
		急性期、回復期、維持期リハビリテーション各期における理学療法士の専門性を理解し、健康増進事業や介護予防事業における理学療法士の役割と実践方法について説明できる。
		授業計画
		1. 障害・要介護者における医療・保健・福祉システムの変遷と現状 2. 障害・要介護者における医療・保健・福祉システムの課題 3. 医療機関における理学療法の現状 4. 医療機関における理学療法の課題 5. 老人保健施設における理学療法士の役割 6. 特別養護老人ホームにおける理学療法士の役割 7. 在宅生活と理学療法 8. 健康増進事業における理学療法 9. 介護保険事業における理学療法(1) 10. 介護保険事業における理学療法(2) 11. 訪問リハビリテーション(1) 12. 訪問リハビリテーション(2) 13. 通所リハビリテーション(1) 14. 通所リハビリテーション(2) 15. まとめ
		評価方法
		受講態度(20%)、レポート(60%)、プレゼンテーション(20%)
特別演習Ⅱ (障害代償学)	森田 千晶 (運動器障害作業療法学)	講義概要
		運動器系障害(頸髄損傷、関節リウマチ、上肢切断など)についての理解を深め、作業療法の視点から機能障害と日常生活活動(ADL)と福祉機器。義肢装具などの障害代償について教授する
		学習目標
		運動器障害による機能・活動障害と日常生活活動における障害像とその関連性について説明でき、福祉機器および義肢装具も含めた作業療法的介入の方法が理解できる
		授業計画
		1. オリエンテーション 運動器障害とは 2. 運動器障害の理解(頸髄損傷) 3. 運動器障害の理解(関節リウマチ) 4. 運動器障害の理解(上肢切断) 5. 運動器障害の理解(末梢神経障害) 6. 運動器障害の理解(その他) 7. 頸髄損傷の機能障害とADLおよび障害代償1 8. 頸髄損傷の機能障害とADLおよび障害代償2 9. 関節リウマチの機能障害とADLLおよび障害代償1 10. 関節リウマチの機能障害とADLLおよび障害代償2 11. 上肢切断の機能障害とADL1および障害代償 12. 上肢切断の機能障害とADL2Lおよび障害代償 13. 末梢神経障害の機能障害とADLおよび障害代償L 14. その他の運動器障害の機能障害とADLLおよび障害代償 15. まとめ
		評価方法
		受講態度(20%)、レポート(60%)、プレゼンテーション(20%)

《今年度休講科目》

- ・救急医学特論
- ・医療コミュニケーション学特論
- ・健康スポーツ科学特論
- ・コーチング論
- ・医療コミュニケーション学セミナー